

中学生の英語辞書使用の実態調査

小 山 敏 子

1. はじめに

外国語学習における辞書利用の重要性は言を俟たない。第二言語習得の研究（たとえば、Fan, 2003 ; Gu & Johnson, 1996 ; Knight, 1994 ; Nation, 2001, 2008 ; Neubach & Cohen, 1988 ; Wingate, 2004）では、辞書を活用しながら L2 (Second/Foreign Language) のテキストを読むことで語彙習得が促進されたり、読解力の向上に役だったりした、といった知見が報告されている。また、Hulstijn, Hollander, & Greidanus (1996) では、辞書を利用することで、“*incidental vocabulary learning*”（偶発的語彙学習）が促進されたと述べている。このように辞書活用の効果は以前から証明されてきた。

一方で Scholfield (1982 : 185) には、次のような興味深い記述がある。

Some vocabulary item is impeding comprehension as the learner reads. “If you can’t work out what it means, just look it up in the dictionary,” says the teacher. The implication is clear : looking it up is a mechanical, last resort activity, in contrast with working it out which suggests active learner participation. But how true is this?

教師は、学習者にとってわからない単語があれば辞書を引け、という。つまり辞書を引くことは “a mechanical, last resort activity” であると考えている、と。そして Scholfield 自身がこのことに疑問を投げかけているように、実際、辞書検索行為は複雑な認知行動が必要とされ (Tono, 2001)、効果的な外国語学習にむすびつくような辞書指導が欠かせないと言われている。それにもかかわらず、我が国の学校教育課程においては十分な辞書指導がなされてこなかったという指摘がある。

たとえば、大学生を対象に、今や印刷辞書を完全に凌駕している電子辞書の方略指導を行った一連の研究において、参加者のほぼ全員が「これまで辞書指導を受けたことがない」と回答している (Koyama, 2013 ; 2010 ; 小山&薮越, 2011 など)。また、Tono (2006 : 24) も、“More and more high school students buy pocket electronic dictionaries without even knowing how to use paper dictionaries.” と記述しているように、多くの英語学習者が辞書の利用方法を身につけていない現状がある。そして、望月 (2010) は、少なくとも中学 2 年生の後半では辞

(24)

書指導が必要になると主張している。

それでは、英語学習者がおそらく最初に英和（和英）辞書を手に取ることになる中等教育課程の外国語（英語）科目において、辞書指導はどのような扱いになっているのであろうか。ここで注目したいのが平成 24 年 4 月から全面実施となった「中学校学習指導要領」である。「外国語」の指導計画の作成と内容の取扱いには、それまでの「キ）辞書の初歩的な使い方に慣れ、必要に応じて活用できるようにすること」の記述が、「キ）辞書の使い方に慣れ、活用できるようにすること」と改定された。つまり、外国語（英語）の授業においては「辞書を最低限使える指導」から「辞書を活用できる指導」に転換されたことになる。また、この流れを受けて、現行の大部分の検定済み教科書（英語）では辞書指導にもページが割かれており、これらは大きな一歩と言えるだろう。

では、実際にどのような状況ならば、中学生が英語辞書を積極的に引こうとするのだろうか。辞書の使い方を教授された中学生が、それを役に立ったと感じているのだろうか。また、彼らが辞書を使うとき、困難を感じていることはあるのだろうか。そこで本稿では、第 61 回全国英語教育研究大会（全英連）奈良大会の中学校の部（第 13 分科会）で行われた実践のうち、特に辞書指導に関連した部分を報告したい。

2. 取り組みの経緯と目的

全英連奈良大会は 2011 年 11 月 11 日（金）、12 日（土）の 2 日間、なら 100 年会館と帝塚山大学に於いて開催された。中学校の部、第 13 分科会（橿原市・高市郡・吉野群チーム）は、「自律した学習者を育てる英語教育」の大会コンセプトのもと、6 校の英語担当教員が大会発表の約 2 年前から活動に取り組んだ。

本チームの研究テーマは「協同の学びから自律の学びへー語彙力に根ざした自己表現力の育成ー」とし、「生徒同士が助け合い、関わりを持ちながら課題に取り組める環境を意図的に設定することで、学習意欲を引き出し、学習への自律を促進できる」という仮説を設定した。その背景として、このような協同学習（Cooperative learning）には、1）学業意欲の向上、2）過去の学習成績のレベルや個人の学習の必要性に関係なく、学習へのより積極的なかわり、3）自分の学習についての責任感の増大、4）課題に取り組んでいる時間の増加、5）様々な見方を認めたり、考えたりする能力の向上、などの効果があるとされ（Johnson, Johnson, & Holubec, 1993）、この学習活動の成果が佐藤（2006）にも多数報告されているからである。また、Johnson et al. の理論をもとにした実践の詳細も、神戸大学附属住吉中学校・神戸大学附属中等教育学校（2009）に紹介されている。

そこで、こうした先行知見をもとに、生徒にとって、英語習得の基礎となる取りかかりやすいもの、そして、努力すれば必ず結果が出るもの、と考えられる語彙学習を 6 校共通の取り組みとし、さらに、各校で辞書を活用した様々な英語活動を展開した。これらの取り組みは、本チー

ムを構成する大・中・小 3 つの異なる規模・地域性を持つそれぞれの中学校において、無理なく実践できる活動として考案されたものである。

3. 実践と辞書指導

公立中学 6 校の参加者 559 名の内訳は表 1 の通りである。このうち B 中学が大規模校、F 中学が郡部に位置する過疎校である。

6 校の共通指導である、1) 品詞別プリント、2) 英単語検定、3) 英語日誌作成、また、各校の取り組みとして、4) 英語カレンダーとカード作成、5) 生徒による Team Teaching などの様子や、取り組み前に実施したアンケート結果については、大会後に発行された『第 61 回全国英語教育研究大会紀要』で報告されている。したがって、ここでは辞書指導に関連した部分と、1 年間の取り組み後に実施したアンケートのうち辞書に関する項目の回答を中心にまとめる。

表 1 参加者内訳

単位：人

中学校	1 年	2 年	3 年	合計
A			124	124
B	166			166
C	131			131
D		43		43
E			74	74
F	7	8	6	21

3.1 辞書指導の内容

本実践の一部として、英和辞典を毎回授業に持ってくるように指導し、積極的に辞書を活用させるようにした。特に、1 年生には「英和辞典を使ってみよう!」というプリント(図 1)を作成して配付、英和辞典の記載事項(ABC 順で記載されていることや、発音記号など)から指導を行った。

また、毎日の宿題として、各単元の新出単語の意味を教科書巻末単語表からではなく、英和辞典で調べることを課した。授業内の活動であるビンゴゲームでは語の意味を、早口言葉では発音記号を辞書で調べるよう指導した。内容理解の授業においては、同音異義語を確認させたり、“watch”, “see”, “look at” などの動詞の使い分けや、“have to”, “must” の意味の違いとその語法も辞書で確認させた。加えて、辞書を使って英語圏の文化を学習することができることも知らせた。

このように、本実践においては、学習内容に関連づけて辞書を積極的に引くように指導した結果、生徒たちが様々な場面で辞書を引く姿が見られるようになった。つまり、辞書が生徒たちにとって身近な存在になったと考えられる。

3.2 辞書に関するアンケート

本実践の主な取り組みである、1) 品詞別プリント、2) 英単語検定、3) 英語日誌作成、4) 英語カレンダーとカード作成などは課外で行われた。特に、品詞別プリントでは、必ず与えられ

英和辞典を使ってみよう！

英語を読んでいて分からない単語がでたとき、英和辞典(English-Japanese dictionary)を使って意味、読み方、使い方を調べることができます。

☆ 単語はすべてアルファベット順に並んでいます。

☆ 単語の横に [] がありますが、これは発音記号です。

☆ 1つの単語でもたくさんの意味があるものや、意味や使い方によって発音が変わるものもあります。

☆ 単語によって対義語(反対の意味の単語)や類語(似た意味の言葉)が調べられることもあります。

辞書の引きかたをマスターして、教科書以上の言葉が分かるようになりますよ。

練習1 次の単語を辞書で探します。辞書にのっている順番を考えてみよう。ページ数のはやいものから番号を書こう。

aunt (4) America (2) am (1) August (3)

Class _____ **No.** _____ **Name** _____

練習2 次の単語の意味を調べよう。

- globe (地球、地球儀)
- lizard (トカゲ)
- revolution (革命)
- convenience (便利、利便)

練習3 次の単語の意味とその対義語を調べよう。

意味	対義語	意味
1 short (短い)	→	long (長い)
2 cool (涼しい)	→	warm (温かい)
3 before (~の前)	→	after (~の後)

練習4 次の単語の発音記号を調べてみよう。

- apple [æpl]
- hard [hɑ:d]
- music [mjʊ:zɪk]
- this [ðɪs]
- English [ɪŋɡlɪʃ]

図1 辞書指導用プリント

た単語を使った英文を作る必要があったり、日誌やカード作成では、自ら英文を考えて作成したりする必要があったため、生徒たちにとっては辞書を活用する機会が多かった。和英辞典については、各クラスに備え付けているものを生徒たちが自由に利用することができた。

そこで、1年間の取り組みの後、生徒たちから実践についての感想を尋ねた際、辞書についての調査も行った(付録を参照のこと)。以下が、そのアンケートの回答結果である。

まず、辞書の所有率と種類(辞書の形態も含む)を調べた。図2にあるように、ほぼ全員(有効回答数555名中539名)が自分の英和辞典を持っている。これは本実践が行われた6校の公立中学校が、新入学生たちの出身小学校から「小学校卒業祝いについての希望」を尋ねられた際、中学校で採択している英語教科書に準拠した英和辞典を贈るよう依頼していることによるものである。このことは、「その辞書を持っている理由」を尋ねられた生徒たちの回答(「小学校の卒業祝い」との回答が511名)から、そして、生徒たちに所有している辞書のタイトルを尋ねたところ、『ニューホライズン英和辞典』『サンシャイン英和辞典』『ジュニアアンカー英和辞典』との回答が74%であったことから裏付けられる。

辞書の形態については、図3から明らかなように、辞書を持っていると回答した生徒の90%以上(522名)が「紙の英和辞典」と答えているが、実に30%以上(175名)の生徒が電子辞

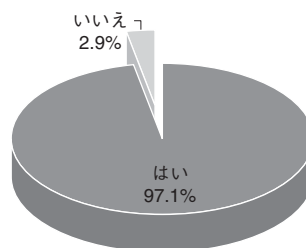


図2 自分の英語辞書(英和辞典)を持っていますか?

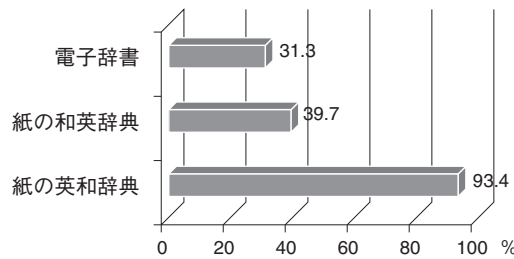


図3 どんな英語の辞書を持っていますか？(複数回答)

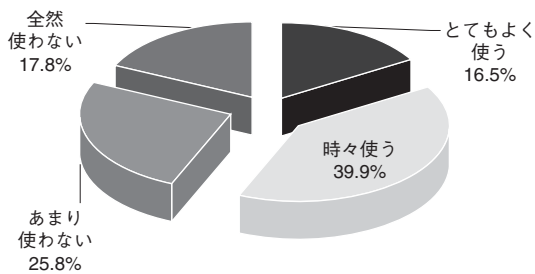


図4 どの程度、その辞書を使いますか？

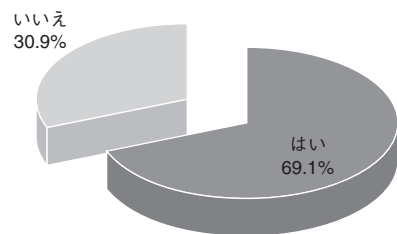


図5 辞書の使い方を教えてもらったことがありますか？

書も所有していた。但し、回答から電子辞書のみを所有している生徒は皆無であった。

辞書を所有している生徒が、その辞書をどの程度利用しているか、についての回答が図4である(有効回答数534名)。約300名にあたる65%が「利用している」と答えているが、4段階のリッカート・スケールで尋ねたため、この回答からは実際の使用頻度は不明である。

次に、辞書指導について尋ねたところ、有効回答数551名中381名にあたる70%程度が「受けたことがある」と答えた(図5)。この質問に対しては、3年生で「受けたことがない」と答えた生徒が多かったが、同じ中学、同じ学年の生徒の中でもばらつきがあった。つまり、本実践への参加者の学年がさまざまであり、それまでの学年での英語指導担当者によって辞書指導を受けことがない生徒が少なからずいた、ということを示している。但し、本実践の一部として指導を受けたはずである1年生は、ほぼ全員が「受けたことがある」と答え、辞書指導の内容についての質問に対しても「先生がプリントを配って説明してくれた」「先生が辞書の引き方を説明して、何度か授業で練習したりした」「先生と一緒に辞書の引き方を練習した」と記載していたことから、辞書指導の内容を正確に記憶していることがわかった。

また、「辞書指導を受けた」と答えた381名に対し「受けた指導が役立ったかどうか」についての回答を図6に示している。これによると、ほぼ90%近くの生徒が「役に立った」と答えている。

最後に、全員に対し、「辞書を引くときに困ったことがあ

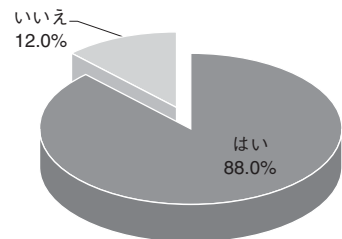


図6 受けた指導は役に立ちましたか？

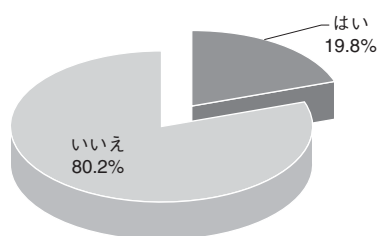


図 7 辞書を引くときに困ったことがありますか？

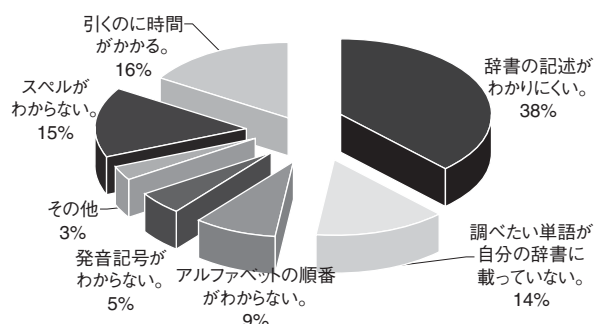


図 8 辞書を引くときに困ったこと（記述のカテゴリー化）

るかどうか」を尋ねた。有効回答数 546 名中 46 名にあたる 2 割近くが「困ったことがある」と答えた（図 7）。そこで、その具体的な内容を自由記述方式で全員に尋ねたところ、多様な回答が寄せられた。生徒たちからの声をカテゴリー化したものを図 8 にまとめる。記載数は全部で 95 であったが「受けた辞書指導は役に立たなかった」と答えた 381 名中 46 名（12%）のうち、辞書を使用する時、実際に困った内容を記述していた生徒は 12 名のみであった。

カテゴリーのうちで「その他」には「紙がくっついて破れやすい」「箱から出すのに時間がかかる」という辞書の形態の問題を分類した。図 8 から明らかなように「辞書の記述がわかりにくい」と感じている生徒が 38% と最も多かった。このカテゴリーには「連語はどの単語を引いたらいいかわからない」という意見も含めている。次に多かったのが「引くのにかかると時間がかかる」という回答であり、全体の 16% であった。「アルファベットの順番がわからない」と答えた 9% と合わせると、辞書を使うとき困ったことがあると答えた生徒の 25% が検索に時間がかかることについて不満があると考えられる。また、「調べたい単語が自分の辞書に載っていない」という辞書の登録語数についての不満をあげた生徒が 14% いた。加えて「スペルがわからない」と答えた生徒が 15% いたが、その理由として、カタカナ語としてすでに日常的に使われている英単語を英和辞典で引くときに困ったことが予想される。

4. 考察とまとめ

アンケートの結果から、小学校との連携ができている校区ではほぼ全員が自分専用の英和辞典を所有していることがわかった。但し、その辞書を積極的に活用している生徒たちは半数程度であり、全体としては「必要に応じて」使用していると推測できる。また、電子辞書を所有している生徒が全体の 3 割程度いることが判明した。おそらく、両親や兄弟から譲り受けたか、各自の自宅にあり、家族で共有しているものである可能性が高い。回答から電子辞書のみを使用している中学生はいないと考えられるが、現状から今後は電子辞書指導も視野に入れる必要があるだろう。

次に、「辞書指導を受けたことがある」と答えた生徒のうち、90% 近くが「その指導は役に立った」と回答している。これは、本実践の指導担当教員らが、授業内においても積極的に辞書を利用するように指導していたこと、また、実践の主な取り組みのうち、品詞別プリントや英語日誌の作成は、辞書を引く必要に迫られたためであろう。すなわち、辞書を使用する必要性が生じる、または辞書を活用するような仕掛けがあると、学習者は辞書を有用だとみなし、引くようになると考えられる。また、共通指導の英語日誌作成や、各校の取り組みの英語カレンダーやカード作りはグループワークとしたため、生徒同士が助け合い、話し合いながら辞書を引き、作品を仕上げていったことが推測される。つまり、まだ辞書を引くことに十分に慣れてない学習者の場合は、こうした協同学習 (Johnson, Johnson, & Holubec, 1993) が、一つの足場を提供したと考えることができよう。

アンケート実施前はアルファベットの順序が定着していないがため、中学生にとって辞書引き行為が困難になっているのではないかという懸念もあったが、今回のアンケートの結果から、そのような問題を抱えている生徒はそれほど多くないと考えてよいだろう (全体の2% 未満)。しかしながら、「辞書の記述がわかりにくい」「連語はどの単語を引いたらいいのかわからない」といった、辞書に記載された情報の読み方に慣れていない、知らないがゆえに起こる困難さを理由にあげていた生徒が、全体の6% もいたことを看過することはできない。

以上のことから、中学校における外国語 (英語) 学習には、1) 教科書の内容に応じたレベルの (学習者の習熟度に合った) 辞書を持たせ、2) まず、辞書の使い方を教え、3) 最初のうちは、指導者が辞書を引く活動を設定する。やがて、4) 学習者らが自発的に辞書を活用するような環境作りを行い、5) 必要に応じて、学習者同士が助け合える場を設け、6) 個々人の辞書利用に対する疑問にも指導者が適切に対応していくことが望ましいと考えられる。

謝辞

本実践の指導に当たられた遠山みさを、谷口延代、奥西絢子、高木則行、茶木美佳、森井幸世の各先生方にお礼を申し上げます。また、アンケート実施や本稿をまとめるにあたり、望月正道先生 (麗澤大学外国語学部教授) からは、貴重なご意見を頂きました。厚くお礼を申し上げます。

附記

本稿は、平成25年3月早稲田大学で開催された大学英語教育学会 (JACET) 英語辞書研究会 WS での口頭発表に加筆修正を加えたものである。なお、本研究の一部は、大阪大谷大学特別研究費 (平成23年度～平成24年度) と、日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究 (C), No.23520724 (平成23年度～平成25年度) の助成を受けて行われた。

参考文献

- 醍醐路子 (編) (2012) 『第61回全国英語教育研究大会紀要』全国英語研究団体連合会 76-81.
- Fan, M. Y. (2003). Frequency of use, perceived usefulness, and actual usefulness of second language vocabulary strategies: A study of Hong Kong learners. *Modern Language Journal* 87. 222-241.
- Gu, Y. & Johnson, R. K. (1996). Vocabulary learning strategies and language learning outcomes.

- Language Learning*, 46, 643–697.
- Hulstijn, J. H., Hollander, M., & Greidanus, T. (1996). Incidental vocabulary learning by advanced foreign language students : The influence of marginal glosses, dictionary use, and reoccurrence of unknown words. *The Modern Language Journal*, 80 (3), 327–339.
- Johnson, D. W., Johnson, R. T., & Holubec, E. J. (1993). *Circles of learning : Cooperation in the classroom*. MN : Interaction Book Co.
- Knight, S. (1994). Dictionary use while reading : The effects on comprehension and vocabulary acquisition for students of different verbal abilities. *The Modern Language Journal*, 78 (3), 285–299.
- 神戸大学附属住吉中学校・神戸大学附属中等教育学校 (2009) 『生徒と創る共同学習－授業が変わる・学びが変わる－』 東京 : 明治図書
- Koyama, T. (2013). Enhancing learners' E-dictionary skills through strategy training. *Selected papers from the 8th ASIALEX International Conference*. 173–178.
- Koyama, T. (2010). Teaching strategies for an effective use of E-dictionary : A pilot study. *Osaka Ohtani Daigaku Eigoeibunngaku Kenkyu (Osaka Ohtani University Studies in English Language and Literature)* 37, 35–43.
- 小山敏子・薮越知子 (2011) 「電子辞書使用の方略指導への一考察－メタ認知活動を取り入れて－」『LET 関西支部研究集録』 Vol.13. 79–91.
- 望月正道 (2010) 「語彙指導と辞書指導のあり方」第 34 回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会東京大会第 4 分科会発表資料
- Nation, I. S. P. (2001). *Learning vocabulary in another language*. Cambridge : Cambridge University Press.
- Nation, I. S. P. (2008). *Teaching vocabulary – Strategies and techniques*. MA : Cengage Learning.
- Neubach, A. & Cohen, A. (1988). Processing strategies and problems encountered in the use of dictionaries. *Dictionaries : Journal of the Dictionary Society of North America*, 10, 1–19.
- 佐藤学 (2006) 『学校の挑戦－学びの共同体を創る』 東京 : 小学館
- Scholfield, P. (1982). Using the English dictionary for comprehension. *TESOL Quarterly*, 16 (2), 185–194.
- Tono, Y. (2006). English bilingual lexicography in Japan : Meeting serious challenges. In S. Ishikawa, K. Minamide, M. Murata, & Y. Tono (Eds.), *English lexicography in Japan* (pp.18–25). Tokyo : Taishukan.
- Tono, Y. (2001). *Research on dictionary use in the context of foreign language learning : Focus on reading comprehension*. Tübingen : Niemeyer.
- Wingate, U. (2004). Dictionary use – the need to teach strategies. *Language Learning Journal* 29, 5–11.

付録 辞書についてのアンケート用紙

10. 自分の英語辞書（英和辞典）を持っていますか？
 ア. はい →11. ヘ イ. いいえ →15. ヘ

11. 10. で「はい」と答えた人に尋ねます。どんな英語の辞書を持っていますか？（いくつでも）
 ア. 紙の英和辞典
 イ. 紙の和英辞典
 ウ. 電子辞書

12. 10. で「はい」と答えた人に尋ねます。どうして英語の辞書を持っているのですか？（いくつでも）
 ア. 小学校の卒業祝いに（学校やPTAから）もらった
 イ. 家にあった（お父さんかお母さん、または、兄弟の辞書）
 ウ. 学校で先生から買うように勧められた
 エ. その他

13. 10. で「はい」と答えた人に尋ねます。持っている辞書の名前を教えてください。
 []

14. 10. で「はい」と答えた人に尋ねます。どの程度、その辞書を使いますか？
 ア. とてもよく使う イ. 時々つかう ウ. あまり使わない エ. 全然使わない

15. 10. で「いいえ」と答えた人に尋ねます。英語の辞書を持っていないのはなぜですか？（いくつでも）
 ア. 辞書が必要だとは思わない
 イ. 辞書を買いたいが、お金（お小遣い）がない
 ウ. 学校で先生から買うようには勧められなかった

16. 全員に訊きます。これまで、英語の授業などで辞書の使い方を教えてもらったことがありますか？
 ア. はい →17. ヘ イ. いいえ →19. ヘ

17. 16. で「はい」と答えた人に尋ねます。どのような指導を受けましたか？具体的に書いてください。
 例：先生と一緒に辞書の引き方を練習した、先生が辞書の引き方のプリントを配ってくれた、など
 []

18. 16. で「はい」と答えた人に尋ねます。受けた指導を役に立ちましたか？
 ア. はい イ. いいえ

19. 全員に訊きます。辞書を引くときに困ったことはありますか？
 ア. はい イ. いいえ

20. 19. で「はい」と答えた人に尋ねます。それはどんな時ですか？具体的に書いてください。
 []